

ポジティブ生徒指導入門 第3回

望ましい行動に目を向けよう

担当者	宇田 光 (南山大学教職センター 教授)
概要	<p>日本の学校で先生方は、切磋琢磨する学級集団をつくろうと努めてきました。そして、好ましい学級雰囲気は、高い学力にも結びついています。こうした学校の強みの反面、不登校やいじめなどの問題もなかなか解消できません。外国の学校での実践から学ぶことは、ないでしょうか。</p> <p>米国の学校では、生徒指導の枠組みとして、カウンセリングやTET（教師学）、ゼロトレランスなどが用いられてきました。でも、その限界や問題点が指摘される中、最近になってPBISという問題行動の予防を重視した試みが行われています。ポジティブな行動支援、あるいはPBSとも呼ばれます。それは急速に大きな流れを形成し、PBIS実践校は2万校におよんでいます。</p> <p>PBISにおいては、生徒が取るべき望ましい行動を、3つの段階でポジティブに指導します。実際PBISを導入することで、行動面、学力面ともに、好ましい成果が報告されています。</p> <p>日本の先生方は非常にお忙しいので、この講座は参加しやすいように半日で設定しました。ポジティブ生徒指導の概略をご紹介します、またPBIS第一段階での取り組みを中心に体験して頂きます。学校の先生方を主な受講者として想定していますが、教育に関心のある方であればどなたでも歓迎いたします。</p>
日程	2023年8月5日(土)9:00~12:00
定員	30名
会場	南山大学 D棟 D51教室
受講料	3,800円 (税込)
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">担当講師 宇田 光 記</p> <p>米国のPBISという学校での生徒指導にかかわる枠組みを中心に、簡単にご紹介する入門講座で、開催は3度目となります。</p> <p>今回は対面実施に戻して、8月5日(土)の午前に実施しました。受講者は小、中学校や専門学校の先生方が半数以上で、経営者の方などもおられました。当日は3グループに分かれて、演習をおこなって頂きました。アンケート結果から少し拾うと、「実践できそうなことばかりだったので、学生指導に生かせると思った」、「やってみようと思った」、「グループワークで、他の参加者さんの意見が聞けたのが、とても新鮮でした。現役の先生のお話しが興味深かったです」など。</p> <p>私自身も適宜、グループに参加させて頂きましたが、多様な現場で豊富な経験をお持ちの方々のお話は、実に刺激があって勉強になります。受講者のみなさま、熱心に参加して頂きありがとうございました。本講座は、何度でもご参加頂けますので、どうぞ今後もよろしくお願い致します。(宇田 光)</p>